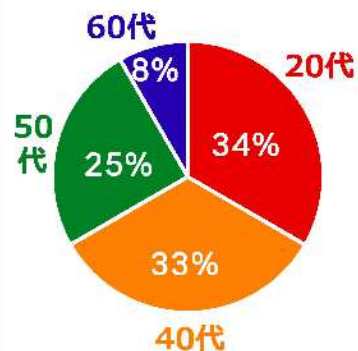


地域デザイン会議概要

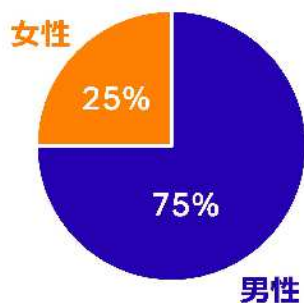
FUJITSU

- 日時：2022年10月13日（木）19:00～20:30
- 開催場所：富士通川崎工場
- 参加者：12名（地域デザイン会議前回参加者ほか）
- 内容：仕組みのプロトタイプ検証（グループインタビュー）

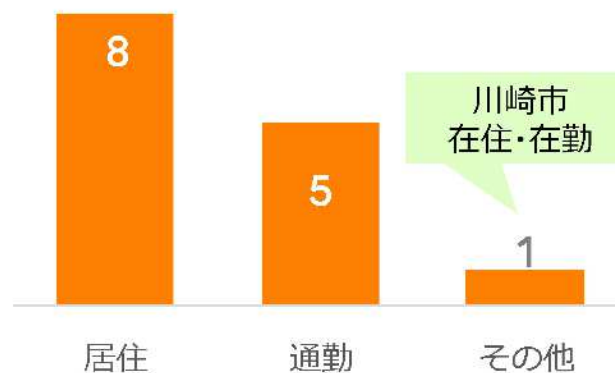
参加者年代



参加者性別



中原区との関係（複数回答）



仕組みの提供価値



行政への提供価値

幅広い市民に意見を聞くことができる

これまで地域や行政と接点がなかった層の意見を継続して聞きながら、施策を検討することができる。

重点的に
検証したい価値

ポジティブな意見を基に施策検討ができる

既存の施策に対する賛同の声や、建設的なアイデア、新たな気づきにつながる意見を聞くことができる。

すばやく気軽に市民に意見を聞ける

気軽に、簡単に、すばやく市民に意見を聞くことができる。施策検討の早い段階や施策実行中に活用することで、効率的な業務運営が可能になる。

市民の街への関心が高まる

市民が楽しく利用でき、情報発信にもつながる仕組みにより、市民とまちとの接点を増やす・継続することができる。これにより、市民のまちへの関心が高まっていく。

市民への提供価値

いつもの生活の中で自然に出会える

既存の生活導線上で仕組みに出会い、興味が生まれる

気軽に楽しく意見が言える

自分のくらしに関する意見を、気軽に楽しく言うことができる。

重点的に
検証したい価値

まちとのつながりが生まれる

自分とまちとの接点を継続して持つことができる。その結果自然とまちへの関心が高まっていく。

まちを自分たちで作っている実感を持てる

仕組みに参加し、他の人の意見や、行政からの反応、まちの変化を知ること、自分たちの意見が届いたことを実感できる。

インタビュー結果の概要

- 既存の仕組みで接点のない市民から、意見を収集できる可能性を実証
- より多くの市民と接点をもち、継続させる仕組みの在り方の検討を開始

インタビュー結果詳細

現状把握	• <u>既存の仕組みを1つ以上知っている人は6名</u>で、パブリックコメントの認知度が一番高かった。 • <u>実際に行政に意見を伝えた経験がある人は、12人中2名</u>と非常に少なかった。 • <u>行政に意見が届いていると感じている人は0名</u>。主な理由としては、意見が特になく、接点がない、意見を言ったことがあるが反応がなかったといったことがあげられた。
仕組みの評価	• <u>これまで接点なかった層からも意見を聞けることや、気軽に参加できる点は評価</u>された。 • <u>スマホ中心のアプローチに変えた方がよいとの声</u>もあった。 • 意見の聞き方は、手軽さでは選択式、真の意見を伝えられるのは自由記述式と、どちらも支持があった。 • <u>市民の利用動機として、住民の関心の高いテーマであること、行政からのフィードバック、情報やポイントの獲得や、仕組みの高い認知度などが求められていることが分かった。</u>
仕組みの効果	• 意見の投票/投稿だけでは興味関心は高まらないが、そこに<u>地域の情報や、結果のフィードバックといった、次へのつながりがあることで興味を持つという回答</u>が多かった。 • <u>面白いコンテンツや職員の想いが伝わる</u>ことで、行政の固いイメージが変わり、応援したくなるかも、といった行政イメージ変化への言及もあった。